

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和8年9月 日 (第3回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	糸島市 (402303)
地域名	深江地区

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	179.51 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	179.51 ha
② 田の面積	175.01 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	4.50 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	4.55 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	4.55 ha
(参考) 区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	11.57 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	1.90 ha
(備考)	

(2) 地域農業の現状及び課題

深江地区の平坦地のほとんどが田で概ね基盤整備されており、基盤整備地内で大区画の水田と深江の園芸施設団地にエリア分けがなされている。 施設園芸ではキュウリ・トマト等、露地園芸は、ブロッコリー、キャベツなど高収益型作物が栽培されている。 特徴として、基盤整備地内の水田では深江営農組合による、3年毎のブロックローテーションによる作付けが行われている。 地区内の主な土地利用は、米・麦・大豆経営体が8件、ブロッコリー8件、キャベツ1件が営農している。 淀川エリアは、排水不良地や、狭隘地、傾斜地など耕作不利地が多く、担い手不足により今後の農地利活用が難しくなることが見込まれる。 園芸ハウス団地エリアは、農道や水路等の法面の一部損壊があるが、生産基盤の機能は維持されている。 基盤整備地内の水田エリアは、河口付近の水路が海水の満ち引きによる影響で水路擁壁が傾斜し、農地からの水漏れが生じている。 【地域の基礎的データ】 農業者: 99人、うち団体経営体: 3経営体 主な作物: 水稻(酒米含む)、WCS、麦、大豆、ブロッコリー、トマト、キュウリ、キャベツ
--

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

大区画の農地は、営農組合による3年毎のブロックローテーションによる農地利用を行っていく。 また、市内に設置しているRTK基地局を利用したスマート農業を活用し、農作業の効率化や農作業従事者の負担軽減を図る。 淀川エリアは、現在の利用者での農地利用を図っていく。
--

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
地区の担い手への農地の集積・集約化を基本としながら、他の農地は現在の利用者を中心に農地利用を行い、農地バンクへの貸付けを進める。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	88.1	%	将来の目標とする集積率 88.1 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
農地に空きが生じる際は、まずは近隣の土地利用型経営体への集約化を図っていく。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

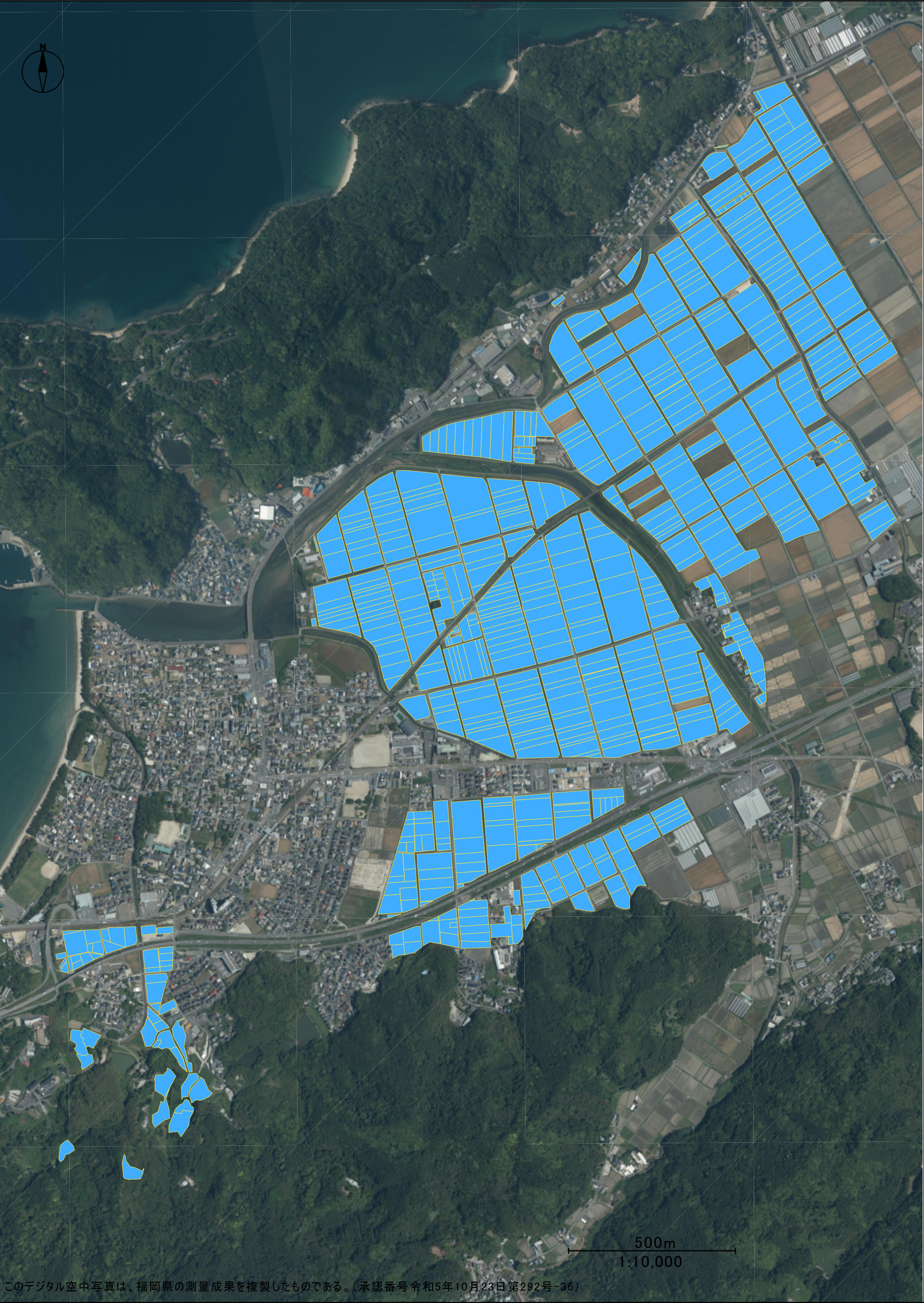
(1) 農用地の集積、集団化の取組
今後も深江営農組合の管理のもと、農地集積・集約を維持する。
(2) 農地中間管理機構の活用方法
地域計画策定後は、農地バンクを通じた貸借を基本に農地利用を進める。
(3) 基盤整備事業への取組
地区の田は概ね基盤整備されており、機能維持のための補修等のメンテナンスを検討していく。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
必要に応じて検討するが、多様な経営体を受け入れていく際は、市はJAと連携し相談から定着まで支援を継続する。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
必要に応じて検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

⑧地元負担を考慮しつつ、営農に必要な水路・堰等附帯施設の補修や改修を適宜検討し、実施していく。



このデジタル空中写真は、福岡県の測量成果を複製したものである。(承認番号令和5年10月23日第292号-36)

この印刷物は、福岡県版水土里情報システム(F-cloud)の地図情報を使用したものである。